

若葉の緑ってこんなに多様で美しいと改めて感じる日々。
初々しい若葉たちが、そよ風に音もなく揺れています。
薫風とは芽吹きで生命が躍動する薫りなんですね。

野川の川崖に沿った『はけの道』は緑の多い武蔵野の面影を残す私の通勤路です。
竹藪の縁を抜ける細道の真中に竹の子が生えてくる楽しい抜け道があります。
通る度に季節と自然の息吹を感じます。東京にこんな所がまだ残っているんですね。

季節が大事なファッション。なのにファッション屋は季節が逆転して今は秋が始まる季節。
暑くなってくると毎日ふっかふかの暖かいカシミアを手にする
秋本番のシーズンです。

我ながら確実に昨年より進歩の跡が実感でき、益々楽しみになっています。

実際、『カシミアでこんなに充実しているメーカーさんは
ありませんよ』と言っていたら、やっぱり嬉しくて勇
気と自信が湧いてきます。

【二味プラス・2003秋冬のUTO】

日本人の匠による確実な仕事に、お洒落なエスプリ
を効かせたラインをプラスした2003秋冬のカシ
ミアは約100パターンの展開です。
衿や袖にニットならではのひと味を加えて楽しさと
大人の可愛さを演出しました。
色は細番手36色、太番手26色のほかにミックス
を加え充実のカラーバリエーション。
カシミアもありますではなく、カシミア専門メー
カーUTOならではの品揃えです。

【カシミアフェア開始】

秋の商戦は春夏に決まると云っても過言ではないで
すね。楽しいカシミアフェアを開催しませんか？
『お客様にピッタリのサイズで、色でお作りします』
と言うセミオーダーがUTOの強み。これからはお
客様に細かに所まで満足を提供するのがお店の強み。
六月末までに、ご注文の方に、お洒落でとっても温
かく便利な『カシミア・ネックウオーマー、プレゼ
ント』を実施中です。販促にご利用ください。
ご注文の商品の納めは3週間後でも10月でも可能
です。
変化、革新の時代といいますが、お店を変えるのは

さりげなく・知的に



No 1226 半袖 ¥29,000-
No 1232 長袖 ¥35,000-

セーラーカラーを思わせる前後の衿が
さりげなく都会的センスを引き立て、カシミ
アならではの高級感とインテリジェンスが調
和したUTOお勤めの逸品です。

キュートなシルエット



No 1227 長袖 ¥38,000-

ロールのネックに袖口と裾に紐を通して
きゅっと締めキュートなシルエットに。
ひもを締めたり緩めたりで自由なシル
エットを演出できる多様性が魅力。
しかも体は開放感で楽々。



アセビ

【南青山界限】

楽しい洋書屋さん

嶋田洋書店

青山通りと骨董通りのぶつかる角は現在
は立派なビルに生まれ変わり、二階に
マックスマラのショップがはいりこの辺
のグランドアップに役買っています。
以前はガソリンスタンドと洋書だけを扱う
嶋田洋書店という小さな店がありました。
丸善のように硬い書籍扱う店というより写
真集や絵本などを中心に楽しい本が沢山あ
る洋書屋さんです。

いつも行く青山ブックセンター本店に洋
書コーナーがありますが、本の裏表紙に小
さな嶋田洋書店のシールが貼ってあります
し、デパートなどの洋書フェアなどの本
にも嶋田洋書のシールがよく貼ってありま
すから結構セラーは大きいようです。

その嶋田洋書店は現在は青山通りから一
本入ったTブレイスの中に移っています。
この四月にやっと出来上がったガラス張り
のライズスクエアというビル(地下鉄・表

自由な着こなしで・ベストタイプ

2002年辺りからベストがブレイク中
UTOでは6タイプを展開
ベストなら秋の初めから楽しめます
『ルーズなネックやブラウスとあわせてカジュアル
に颯爽と』、色んな着こなしで楽しんでください。



No 1556 ¥42,000



No 1558 ¥38,000



No 1227 ¥29,000

参道のB-3の出
口)の裏です。といつてもすぐ裏は芸能誌によ
く登場する青山第一マンションですから、そ
の向かい側。
以前よりは分りづらくなってしまいまし
たが、本好きには立ち寄ってみる価値は充分
にあります。

このTブレイスは元々郵船倶楽部で平成三
年に出来た十軒ほどの店が入った小さな
ショッピングブレイスです。

一番手前の右側の地下がイタリア料理の巨
匠と言われる『リストラテ・ヒロ』で、お昼
はいつもいっぱい。私が一人でふらりと行け
るような店ではありません。

反対側が魚料理の伊豆の旬『やんも』。ここは
カウンターがあり、焼き魚や煮魚のランチを
やっているのて極たまに行きます。

嶋田洋書店は一番奥ですが、昔のようによ
そよしくはなくなり入りやすくなりました。
外国語の苦手な私にとっては探すのに骨が折
れますが、写真集が主なので探す

こと自体がなかなか楽しいもので
す。風景、花、庭園、インテリア、
ファッションそれに車、ペット
等々。

この頃は日本の本、特に写真集の
値段が高くなりすぎたので、昔に
比べると洋書は全般に安く感じ
ます。

また、入り口には店が古くなっ
たりチョッと傷んだ本を格安で並
べてあり、タイミングが良いと
バーゲンセールをやっている時が
あるので格

安で買える
ときがあり
得した感じ
になります。



* ニットの話 * (八)

世界一のカシミア・ニットメーカーを目指して

大風呂敷を広げたんだとお思いかもしれませんが、しかし、UTOは近い将来『カシミアのニットならUTO』と世界中から認められるメーカーを本気で目指しています。

海外を駆け回る旅行屋の時、ヨーロッパのファッションの実状を視察するツアーをやったのが切っ掛けでファッション業界との接点が出来、自分でも思いもなかった大転換。とうとうニット屋になってしまいました。以来二十年、ファッション屋として多くの経験と勉強をすることが出来ました。

ニット屋になった当初からこの軽くて柔らかいカシミアに魅せられ虜になってしまいました。

『好きこそものの上手なれ』と、自分なりに勉強してきたカシミアにニット屋人生を賭け、世界を目指します。

独立して、いろんなデザインと素材でもの作りに挑戦してきました。秋冬素材の羊毛はもちろん、アンゴラ、モヘヤ、アルパカ。そして一番好きなカシミア。春夏は綿、麻、シルク等々。

当初から出来るだけ天然の素材を使っていた。化学繊維や合成繊維が嫌いではないんですが、天然から供給される素材が好きだし、自然と共存しながら原料を生産する人達の少しでも役に立てばと思っていました。

また、その方がより地球環境にもやさしいもの作りが出来るんじゃないかと考えるからです。

会社を始めた当初、精一杯頑張って品揃えして、いろんな素材を扱うことが出来ることをアピールしましたが、各々素材は奥が深く自分では満足できません。残るのは敗北感と在庫だけで、結局以前の会社のミニ版に過ぎず魅力に欠けるんです。



頑張ってるつもりで品揃えが増えるのは『沢山の品揃えをしないと不安』が一因だと知ることになり、『何でも有り』は、結局何にもない』を身をもって体験することになりました。

どうせやるなら自分が好きで自信を持てる、ニット屋になって以来魅せられたカシミアに絞ってやっていこうと決めました。

好きなものでだめだった悔いは残らないと決断したとたん重く覆っていた雲が晴れるような心境でした。もちろん絞り込むことでハンディを負うことも確かですが、自分のような才能のない人間が人様に伍していくにはこれしかない選択だったと思います。

またカシミアなら勝てる自信ありと密かに自負する処もあります。二十年以上もこの業界にいて、日本はもちろん、香港や台湾・韓国、最高峰と云われるイギリスやイタリアなどの多くの工場を訪れ、仕事する機会に恵まれ、世界はおおよそどんなレベルがある程度は見聞することが出来たのもひとつの要因です。

日本のメーカーでカシミア専門のメーカーはありません。もちろん大量生産の年産何千枚何万枚という、中国やモンゴル系の衣料品メーカーはありますが、ファッションを重視して色んなデザインで展開するメーカーを私は知りません。また、普通のニットメーカーが展開するカシミアは、品揃えの一部として全体の何パーセントかを展開しているのが実情でしょう。

現在、UTOが意識する競争相手は(相手は思ってもいないでしょう)スコットランドのバランタインとイタリアのマローロ、チヴィディエーニ。追いつけ追い越せです。

忙中暇話・ニット屋のたわごと

小金井公園の音楽家達



以前は週に二・三回ぐらいは早朝に近く的小金井公園を散歩していたんですが、昨年の八月に引越して小金井公園は遠くになってしまいました。

それでも同じ小金井の中なので時間があつて天気がいいと自転車でもひと走りして広い公園の中で緑を満喫するのが楽しみです。

冬場のウィークデイや朝夕の公園はジョギングや犬の散歩の人がすれ違うぐらいでひっそりとして、大きな木々が静寂を作ってくれています。

でも、陽気が良くなり、休日ともなると広い公園がけっこう賑やかです。家族連れや犬の散歩はもちろんですが、楽器が加って更に賑やかになります。

トランペットやトロンボーン、ホルン、サキソフォン等の金管楽器。アフリカあたりの民族楽器のタムタムや韓国の太鼓など大きな音のするものが主流で、弦楽器やフルートのような繊細な楽器はあまり見受けません。

各自思い思いに練習していますが、共通するのがみんなかなり下手なんです。(ゴメンナサイ)

残念ながら足を止めて聴いていこうというのにお耳に掛かったことがありません。本人は下手だから上手くなる為に、近所の邪魔にならないようにとひろい公園に来たんです。こんな下手だった家でやるはずはないと妙に納得してしまっています。

みんな一応に、人気の少ない樹の下で練習している姿は遠慮しながらというの解かるんですが、何せ音の大きな楽器です。いくら遠慮していても、随分と離れて歩いてても強制的に耳に入っていきます。

調子の外れたサキソフォンの『聖者の行進』の出し。『オーワンダッセイ』が何回も何回も続きます。その度にこっちは応援も兼ねて頭の中で一緒に歌っているんですが音の調子が狂いつつは欲求不満になってしまっています。一時間ぐらいして通りがかってもまだ同じフレーズをやっています。

『何とかしてこれ』と思います。仕方ないかな？上手く成ってくれるのを願うのみ。

世界のホテルを旅する (八) 元旅行屋のお勧め
キーウエスト・USA

ホテル ビア ハウス

フロリダのマイアミから国道一号线を南へどんどん、どんどん南下します。すると陸地を過ぎ海の上をすることに相成ります。

このルートは別名海上ハイウェイと呼ばれフロリダ半島南端のメキシコ湾に浮かぶ島々を四〇以上の橋で結んで、アメリカ合衆国本土の最南端まで続く道です。途中にはセブンマイル・ブリッジという、その名の通り七マイル(十一キロ)も続く長い橋を渡ります。

どうも端っこやてっぺんなどは旅愁を駆り立てるもので、武田鉄也じゃないけれど『おもへばとほくへきたはうもほろんだ』などと、思わず歌いだしたくなる気分です。

この橋の行き着く先がアメリカ本土最南端のキーウエストという小さな島。底抜けに明るくカリブの雰囲気のある常夏のリゾートとしてアメリカ人の中でも人気の処なんです。自転車でも小一時間でもかからず一周できるほどの小さな島だ。このキーウエストはノーベル賞作家のヘミングウェイが『武器よさらば』をはじめ『誰がために鐘は鳴る』『キーマンジャコウの雪』などの作品を書き上げた所です。

今もその邸、ヘミングウェイ・ホームが国の史跡として残っています。華やかなりし昔のキューバ航路の棧橋にビア・ハウスという名のホテルがあります。ビアとはもちろん橋の意味。まさに橋に建ったホテルです。

全館白を基調にしたコロニースタイル。花に囲まれたベンションと間違えやすい小さな入り口が印象的ですがこの、入り口は三角形の形をした敷地の頂点で奥に行くほど広く、敷地の中には椰子の茂る中庭やプールが広がり、底辺が海に面したプライベートビーチもあります。

このホテルで一番気に入ったのが海上にあるレストランです。海を一望できる抜群のロケーションで、食事してる下を小魚達が泳ぎまわっています。

昨日のロングドライブで朝寝坊してしまい十一時ごろランチに出かけました。ヘミングウェイを意識して、デッシュにキッシュにコックトンパンツと開襟シャツ。食事をしているすぐ前の海の中の杭にとまっているペリカンが銅像みたいでじつと動かないでこっちを見ている。その前を、近くのヨットハーバーに入り出る大物釣りのトロリング船が行き交います。

こんなシーン。一九四〇年代にタイムスリップしたみたいで、今にもパイプをくわえたヘミングウェイが出てきそう。やっぱりここは『カリブ』と実感します。ただ一泊しか出来なかったのが残念です。



Pier House
One Duval Street, Key West, Florida 33040
(305) 296-4600